

6-2 紀伊半島およびその周辺域の地震活動 (1984年5月～1984年10月)

Micro Earthquake Activities in and around the Kii Peninsula
(May, 1984 - October, 1984)

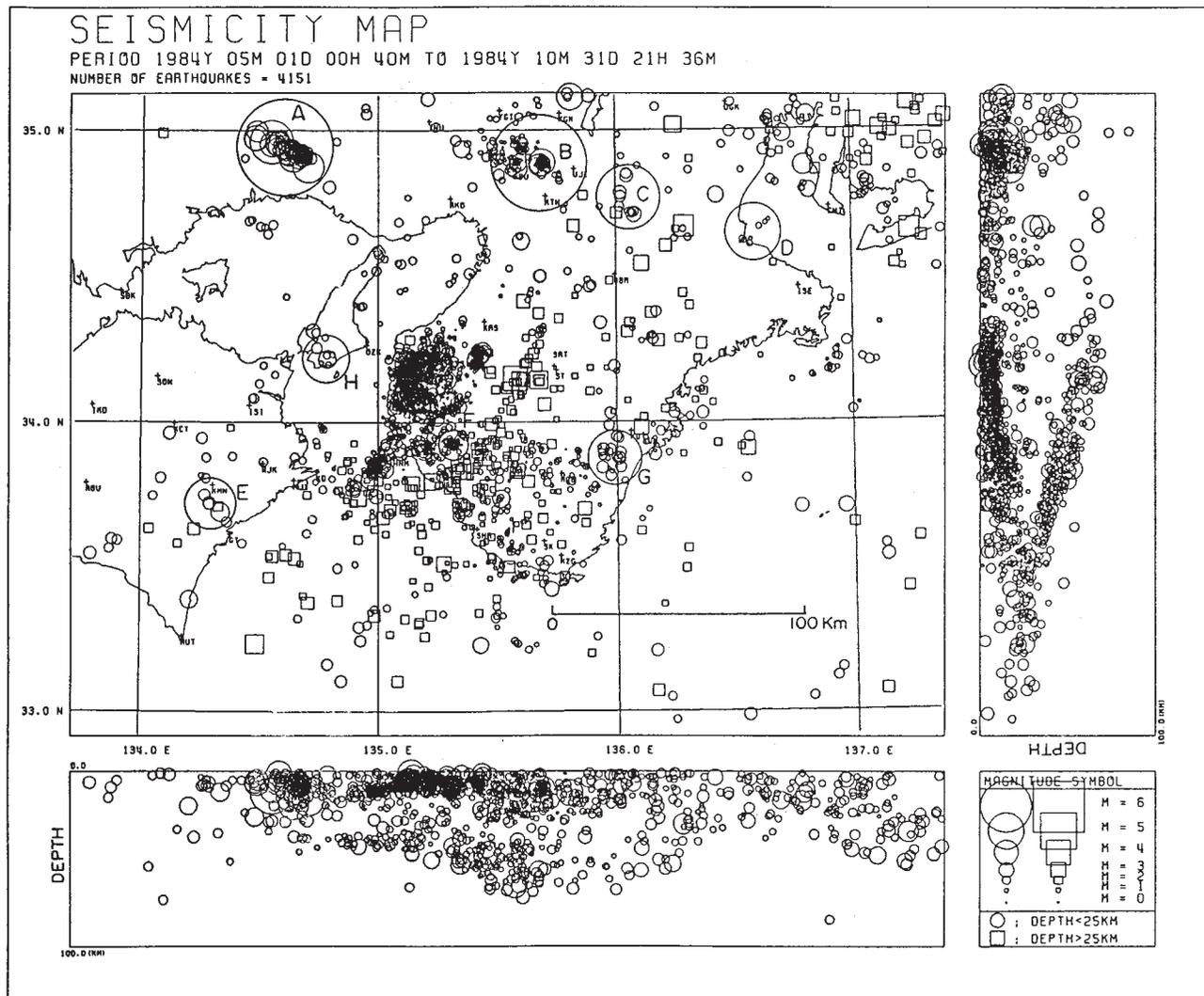
東京大学地震研究所
和歌山微小地震観測所
Wakayama Microearthquake Observatory
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

第1図、第2図は、紀伊半島およびその周辺域と和歌山市周辺部の震源分布図である。この期間中特に顕著な地震活動と思われるものは以下のとおりである。

- ① 山崎断層付近の地震 (第1図, ①)
- ② 大山崎町付近の地震 (第1図, ②)
- ③ 伊賀上野付近に M=2 クラスの地震が集中している (第1図, ③)
- ④ 三重県松阪市付近に浅発性地震群がみられるが、これらは前回報告した(昭和59年8月, 第32巻)ものと同じで、継続して発生しているように見える (第1図, ④)
- ⑤ 徳島県海部郡, 五反田観測点 (GT) 付近に、最大 M=3.4 を含む若干の活動が見られる。(第1図, ⑤)
- ⑥ 第1図, ⑥は1984年1月頃より比較的長期に行われている発破によるものである。(第1図, ⑥)
- ⑦ 熊野観測点 (KUM) 西部に M = 2 クラスの地震が集中している。(第1図, ⑦)
- ⑧ 淡路島南西, 南淡町付近に1984年8月4日 M = 3.3 を含む若干の活動が見られた。(第1図, ⑧)
- ⑨ 和歌山市周辺部では依然として和歌浦湾および紀ノ川河口付近の活動が活発であり、点でハッチされた部分の活動は低調である。(第2図参照)

1984年6月25日, M = 4.3, 同9月3日, M = 3.5, 9月7日, M = 3.5が雑賀崎付近に発生した。これらの活動は比較的長期間続いている。第3図は、1984年3月～1984年9月までに雑賀崎付近に発生した主な地震と、そのうちの3例の発震機構である。いずれも同じような形態を示している。なお、同図中 SIZ, CWK, OZK は臨時観測点として、1984年7月より設定したものである。

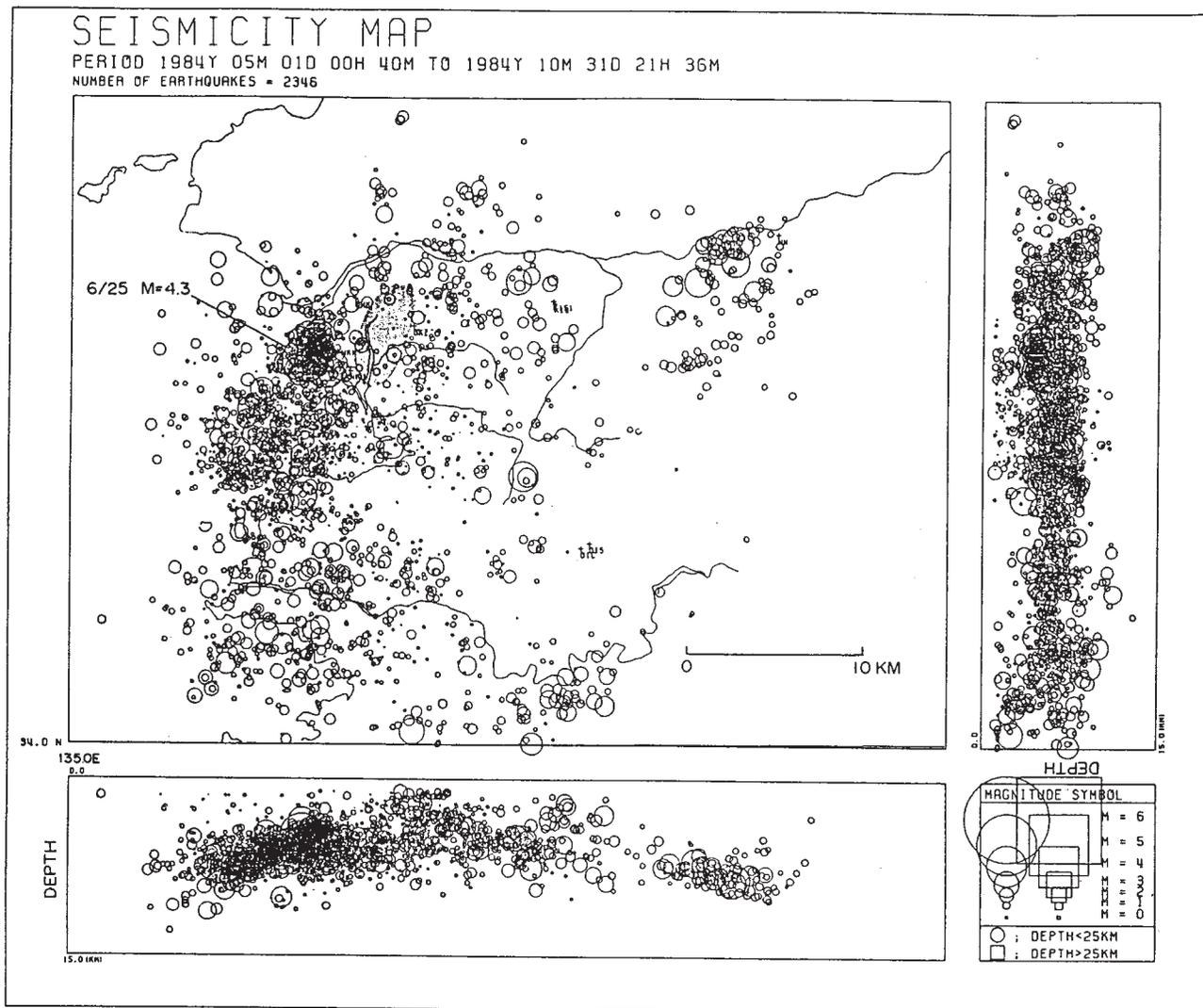
紀伊半島内での地殻地下地震の活動は比較的低調で、1984年5月31日の M = 4.3, 深さ65 kmが最大であった。第4図～第6図は紀伊半島全体, 紀伊半島西部, 和歌山市周辺部の各



第1図 紀伊半島およびその周辺域の震源分布図

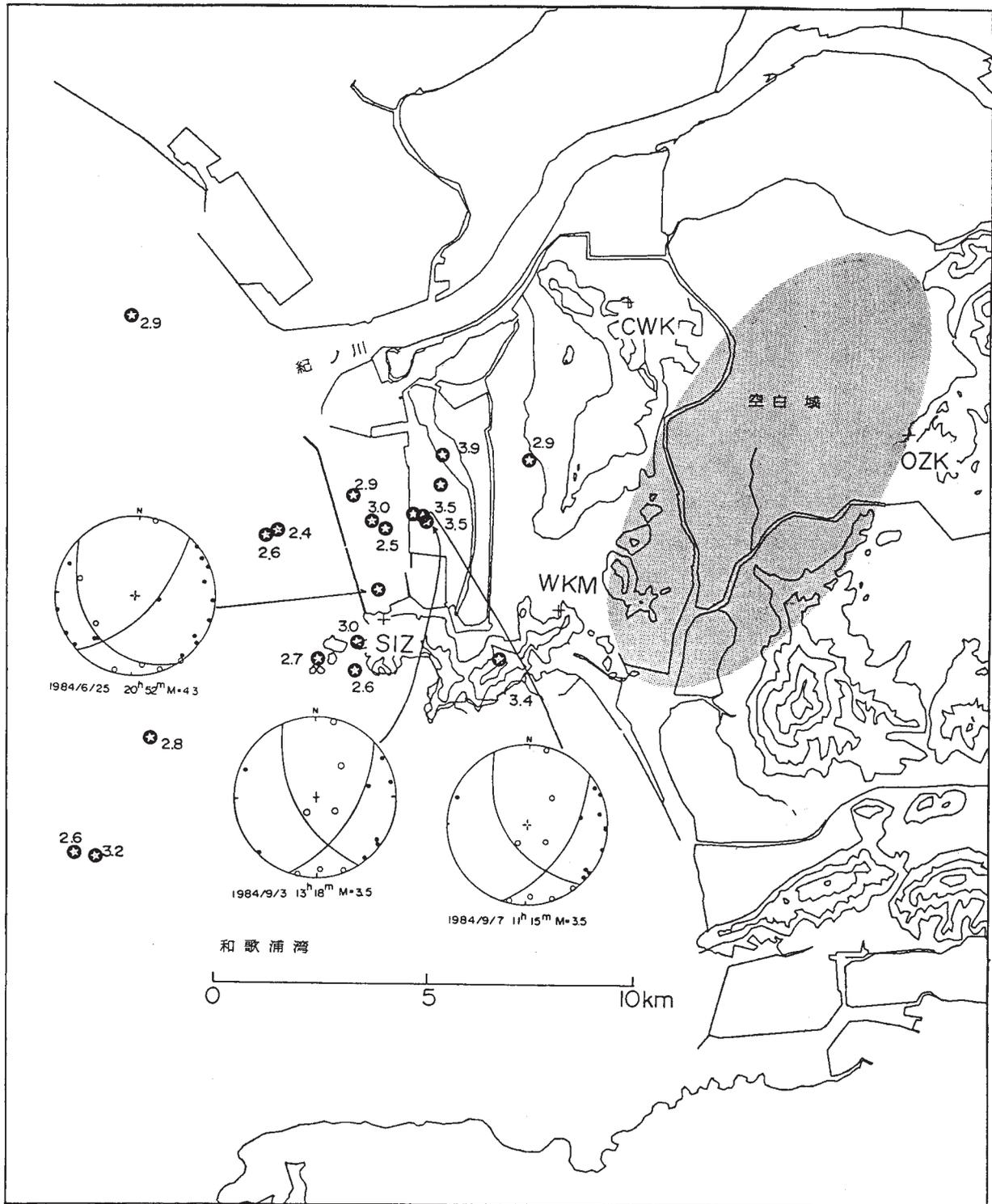
Fig. 1 Distribution of Epicenters in and around the Kii peninsula.

時空間分布図である。なお、第6図において楕円にハッチされた部分は空白域を示している。



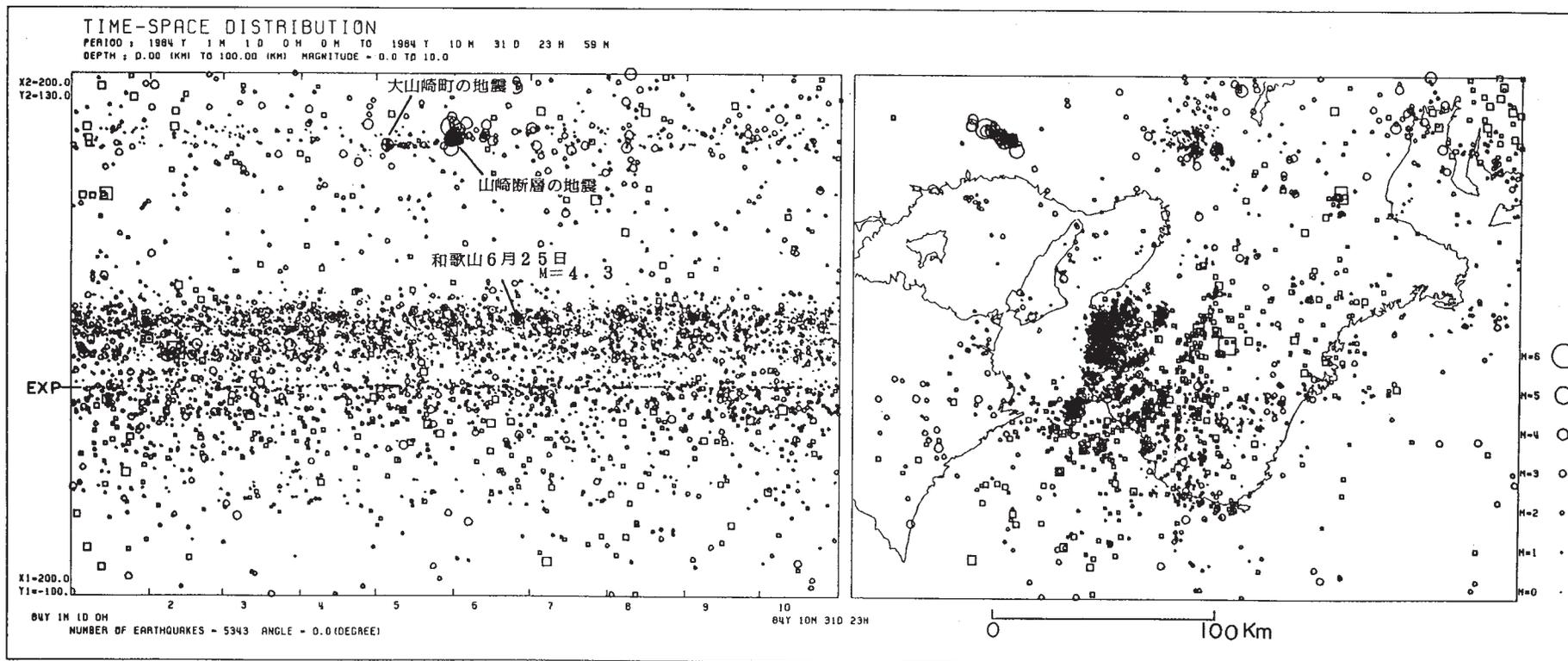
第2図 和歌山市周辺部の震源分布図（楕円にハッチされた部分は空白域を示す）

Fig. 2 Distribution of Epicenters in and around the Wakayama City.



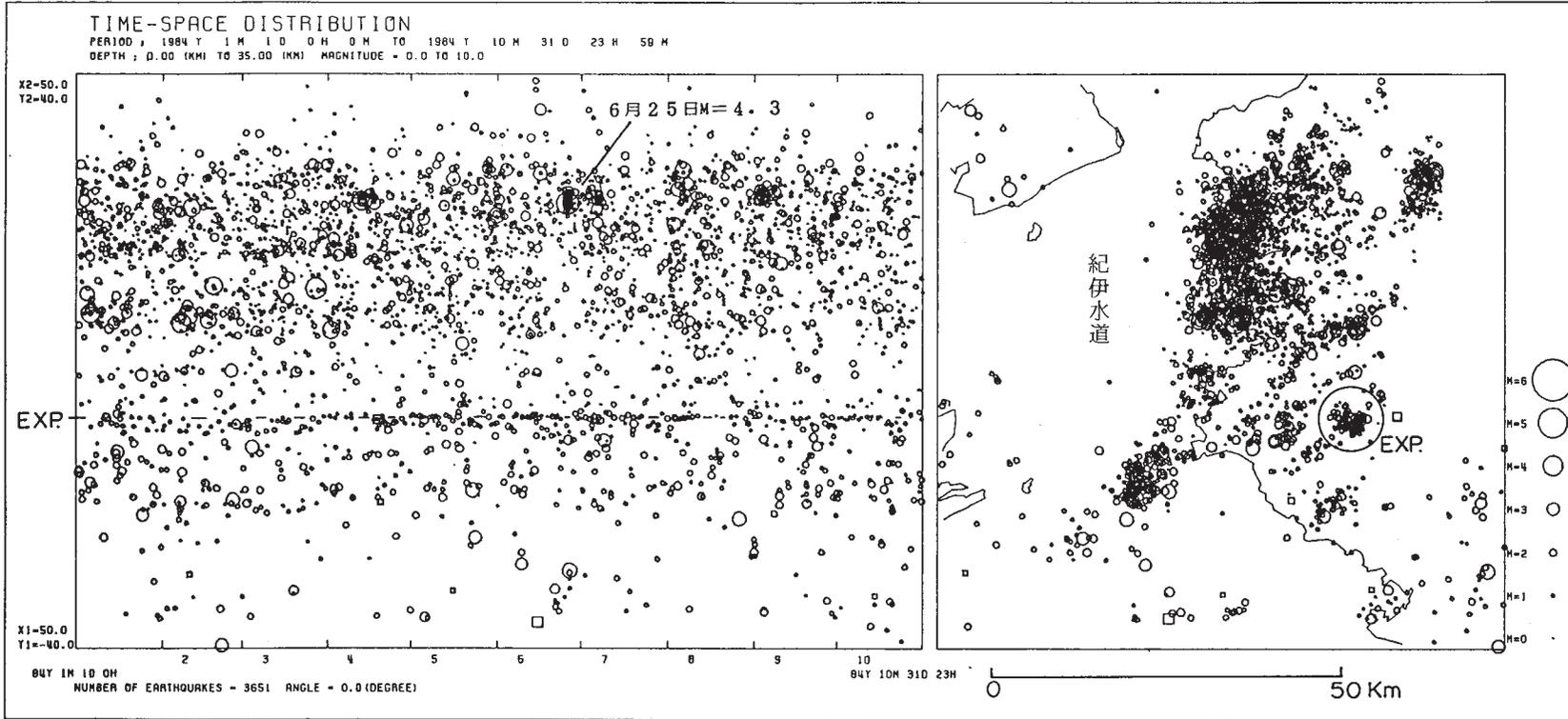
第3図 1984年3月～1984年7月までの顕著な地震の震央とその発震機構。(上半球等積投影, 数字はマグニチュード, 楕円にハッチされた部分は空白域)

Fig. 3 Focal mechanisms of major earthquakes for the period from Mar. 1984 to Oct. 1984. (● : Down, ○ : Up)



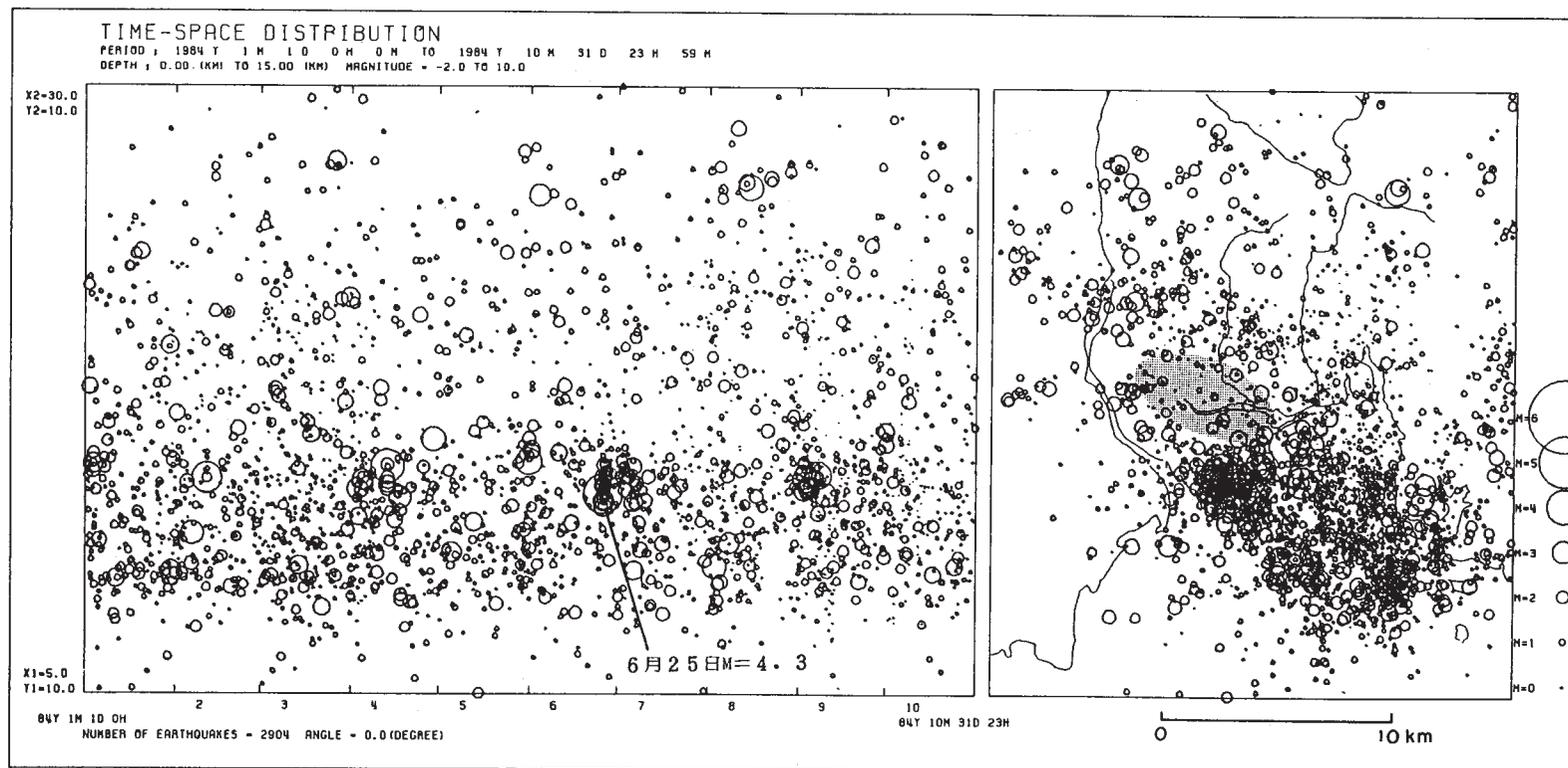
第4図 紀伊半島およびその周辺部の時空間分布 (□は深さ 25 km 以上)

Fig. 4 Space-time Distribution of earthquakes in and around the Kii peninsula.



第5図 紀伊半島西部の時空間分布 (□は深さ 25 km以上)

Fig. 5 Space-time Distribution of earthquakes in the Western part of Kii peninsula.



第6図 和歌山市周辺部の時空間分布 (楕円にハッチされた部分は空白域)

Fig. 6 Space-time Distribution of earthquakes in and around the Wakayama City.